


<h2 style="text-align: center;">切木のボタン（きりごのぼたん）</h2> <p style="text-align: center;">～樹齢400年～</p> <p>切木のボタンは、東松浦半島南西部、唐津市肥前町切木の出直登氏宅の庭先にある。高さ約50cmの石垣で囲まれた東西5.6m、南北6mの花壇にあふれんばかりに栄えているが、もとは1株であったといわれる。</p> <p>基幹は、現在、40株ほどに分かれているが、それぞれの株はさらに5～10本程度に枝分かれしている。基幹周辺の株で、最大のものは、幹の径が約6cm、高さが約1.5mに及ぶ。</p> <p>ボタンは、中国原産のキンポウゲ科の園芸植物・落葉低木である。「立てばシャクヤク、座ればボタン」と昔から美人の艶やかな姿にたとえられるように、実に美しい花を咲かせる。</p> <p>切木のボタンは、毎年4月下旬に満開期を迎え、直径25cm程の淡い紅色の八重の大輪を500個以上も付け、多くの見物客の目を楽しませている。</p> <p>昭和51年2月25日 県の天然記念物（植物）に指定 唐津市肥前町切木乙</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">分野</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">自然</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">地域</td> <td style="text-align: center;">肥前</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">◎地図・写真・統計資料など</p>  <p style="text-align: center;">（『佐賀県の文化財』より）</p>	分野	自然	地域	肥前
分野	自然				
地域	肥前				
<p>◎エピソード・伝承・うんちく など</p> <p>今から約380年前、岸岳城（唐津市相知町・唐津市北波多）の城主であった波多三河守が豊臣秀吉の怒りにふれ、流罪となった際、家来たちは城を焼き払って立退き、三河守が大切にしていたボタンをこの切木に移し植えたという伝説がある。</p> <p>なお、近松寺のボタンは切木のボタンを株分けしたものである。</p> <p>■博多祇園山笠と切木ボタン</p> <p>切木ぼたん(肥前町) 秀吉の怒りにふれ筑波山に幽閉された松浦領主、波多三河守。その後、焼け落ちた波多氏の居城、岸岳城跡（北波多）を訪れた家来の井手賢介が、主君の愛した牡丹の一株を見つけ、持ち帰って屋敷に植えたのが始まり、といわれている。また、三河守に同情した博多の人々は、博多祇園山笠に牡丹の花の飾り物を加えるようになったといわれている。</p> <p>また、中州観光協会のHPには、以下のように記されている。</p> <p>山笠と牡丹 昇き山笠、飾り山笠どちらにも牡丹(造花)が飾られている。どうして山笠に牡丹か？「切木の牡丹」説というのがある。切木は佐賀県東松浦郡肥前町にある地名。ここの民家で育てられている牡丹は大輪で、佐賀県の天然記念物に指定されている。地元の言い伝えによると、この牡丹は今から約400年前、同地方を支配していた波多三河守が大切に育てていたものという。三河守が太閤秀吉の九州平定のおり町割りに参加せず怒りの触れ、城は焼き払われたが、その際、三河守の妻が重臣に依頼、ひそかに持ち出され切木に移し植えられた。三河守が参加しなかったのは、秀吉が三河守の妻”秀の前”に横恋慕したのが原因と言われている。博多人は三河守に同情、山笠に飾るようにしたというのだ。</p>	<p>◎引用・参考文献（出典）</p> <p>※「歴史」の部「岸岳城跡」参照</p> <p>◎もっと詳しく知りたい方は</p> <p>唐津市近代図書館へお問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html</p>				